

色の濃淡（2色配色）を組み合わせたチェック織物の視覚特性
○ 朴 美愛 成瀬 信子（文化女大）

目的 テキスタイルデザインは材質と柄、色彩を有機的に統一を図ることによって、視覚的な印象が異なり、多様な美的表現を効果的に作り上げる。様々なテキスタイルデザインの中からチェック柄の基本的な考え方の構築のために今回の研究を行った。

方法 試料はサンプル作りのために開発されたITOI-クリエーターを使い、チェックの幅は黄金分割比で、規則性を決め、色は3原色（青、赤、黄系）とした。同一チェック柄について、同色系の明度を変え、2色配色（濃、淡色）を12枚デザイン制作し、試料1枚当りの相対明度、相対彩度を算出した。試料の評価はSD法を用い、女子大生20人を被検者として60項目について官能検査を行った。各々試料の相対明度、相対彩度の関係および項目間の関連性を調べ、多変量解析を通して、チェック柄の視覚に与える要因を検討した。

結果 1. 同一のチェックの組み合わせでも、色によりその評価が異なっている。2. 相対明度、相対彩度により、視覚的な印象が異なり、青系はチェックの構成が正方形の場合、チェック幅が小さい方が同じ相対明度でも色を濃く感じている。3. 3色系の相対彩度の占める範囲がそれぞれ異なり、主成分分析の結果から、官能量間の関連性が違うことが示された。